

# 飛騨びと言の葉綴り

HIDA CITY 20TH  
ANNIVERSARY



## 『何事にも執着し過ぎず～Gattan Go!引き際の魔術師』 山口正一

### 『何事にも執着し過ぎず～ Gattan Go!未練遺さず潔く、引き際の魔術師たれ!』

「ガッタンゴーの生みの親で名付け親、言い出しっぺヤ」。男の名は、山口正一(76)さん。神岡町殿の(有)山口木工所、会長取締役だ。

正一さんは昭和24(1949)年に、祖父が昭和初めに創業した、船津座隣の住居兼工場で、4人姉弟の長男として誕生。「祖父は優れた職人で、近代経営に関心が高く、当時は珍しい給与制を導入。若い職人は、『嫁をもらうため入社した』と」。戦後は復員した職人を再雇用。厚生年金や社会保険にも加入。正一さんは神岡の新制中学から、岐阜県立斐太実業高等学校の工芸科へ。さらに推薦で大学へ進学。大学卒業後、羽島郡岐南町の木工所に住み込み勤務。だが入社2か月。「休暇を取り北欧からヨーロッパを南下。ジブラルタル海峡を経て、モロッコやナイジェリアへ、バックパッカー一つの一人旅!」。12月に岐南町の木工所に戻り、工場勤務を経て営業へ。何とも太っ腹な会社だった。

昭和48年、神岡に戻り家業へ。営業エリア拡大に奔走。「しかし翌年工場から出火!火事見舞いに皆が集まってくれ、妹の同級生も炊き出しに!当時私は、名古屋の娘と付き合ってたんですが、見舞いどころか電話一本。妹の友は、2日も炊き出しを手伝ってくれたのに!...それが今の嫁です」。昭和50(1975)年に深雪さんと結ばれ、2男1女を授かった。

「造り付け家具の製造をメインに、公共工事も増え営業エリアも拡大」。昭和59(1984)年、35歳で先代から社長職のバトンを託された。「当時は全国にゴルフ場が立て続けに開業。クラブハウスやフロント、ロッカールームなど造り付け家具の注文も目白押しに」。社業を安定軌道へと導いた。丁度その頃、旧神岡鉄道が平成18(2006)年で廃線と決まった。「線路を存続出来ないものか?そんな頃、木工所仲間とサイパンへ。私だけマウンテンバイクでジャングルを走る、オプションツアーに参加したんです。するとジャングルの中で、レールが顔を出すじゃないですか!戦時中日本軍が物資輸送のため敷設したものが!」。木漏れ日に浮かぶレールの軌道。「あっ、これだあ!」。脳裏に神岡鉄道の、レールの上を駆ける、マウンテンバイクの姿が舞い降りた!直ぐマウンテンバイクを取り寄せ、鉄工所に持ち込んだ。「バイク2台を軌間の1,067mmに合わせ、鉄製のフレームで固定し、レールの上で走らせたい!」。約2ヶ月後、試作車が完成。「神岡鉄道協会の残金を活用し、2005年には市からの予算も降りた」。2006年11月30日、神岡鉄道最後の日。「皆感謝の気持ちで一杯。何とか線路を再利用し保全しようと、ガッタンゴーが2007年にスタート。そしたらマスコミに取り上げられ大人気に!」。

「私も35歳の年に社長に就任しましたから、会社も安定軌道の今こそ、長男に社長職を譲ろうと」。平成23(2011)年、社長を辞した。

また時を同じくし、ガッタンゴーの運営母体、NPO法人の専務理事としての職も辞した。「次の世代の方にバトンタッチせんと!まあ、何事も一番調子が良く、上手く行っている時こそが、身の引き際。今思えば、志を同じくした仲間達あつての物種。感謝の念に堪えません!」。引き際の魔術師～山口正一。木工所もガッタンゴーも、深い愛情を今も抱き、そっと見守り続ける。



やまぐち しょういち  
神岡町 山口 正一さん



市ホームページでは、フルバージョンやこれまでの連載もご覧いただけます。

文/オカダミノル  
(飛騨市観光プロモーション大使)  
イラスト/波岡孝治  
(のみながらにがえ師)

